

モーリシャス豆知識・小話 第4号

2017年8月

(1) モーリシャスの主要輸出品目って、何？

真っ先に思いつくのが、砂糖、そしてラムでしょうか。アパレル製品もありますね。統計上も繊維・衣料品、砂糖、魚が上位を占めているようです。逆に輸入品は機械・車輛、食糧・飲料となっています。ただ、2006年からこの国は、こうした従来からの伝統産業である砂糖生産、繊維産業及び観光産業に頼る経済からの脱皮を図り、IT産業への投資や国際金融センターの設置等を積極的に進めています。

また外国直接投資の誘致にも力を入れています。エンタープライズ・モーリシャス（日本のJETROのような政府機関で、輸出振興等の支援を行うところ）なども当国の新たな国家輸出政策の下、モーリシャス産品の輸出拡大を図っているようです。その中にはもちろん日本も対象に入っています。

日本と同じように資源の乏しい島国が今後どのような貿易を行い、地理的環境、比較的豊かな社会インフラ、アフリカの中で比較優位のある労働資本をどう活用して経済成長を図っていくのか、我々はそれを見守るとともに、日本企業関係者にも是非当地に進出していただき、モーリシャスでの経済活動、あるいはモーリシャスをプラットフォームにしたアフリカ進出を狙っていただきたいと思えます。



スーパーのラム売り場とラム工場

(2) 言葉が Méli-Mélo !

モーリシャスは英仏両語が通じる国というのが売りの一つですが、確かにこの国の人たちは器用に数カ国語をこなしますね。英語で会話していても、いつの間にか仏語に変わっていて、傍らのモーリシャス人にはクレオール語で話しかけ、などと、英語でさえも完璧にはしゃべれない日本人の私は頭が混乱してしまいそうです。

でも、モーリシャス人の中にも英語がしゃべれなかったり、たどたどしかったりする人もいます。かと思うと、家庭でも英語を日常用語にしている人もいます。一体彼らにとって、本当の母国語とはどれなのでしょう。一般にはクレオール語とのことですが、クレオール語は元々フランス語をもとにしたブロークンフレンチ。口語では使っても、高度な思考や抽象的な概念を整理する際に使える言語とは言えないようです。よって高等教育は英語、フランス語になっているようですが、そうした否応無しの多言語文化環境がこの国の人たち、特に一定以上の教育水準の人たちを鍛え、国際場で活躍できる人材を育成しているのかもしれませんが。

我々日本人は、先祖伝来の母国語で高等教育まで受けられる幸せを享受しつつ、しかし現状において日本語がどうしても国際語にはなり得ない現実を前に、モーリシャス人たちを見習って多言語人間になるべく、精進したいものです。